

## 東大EMP第15期プログラム 最終報告発表 概要

(2016年9月10日)

チーム・メンバー	課題テーマ	タイトル	概要
<p>[チーム1] 大橋 務 小林 健一郎 富原 早夏 中村 大地 古川 浩気 山口 豊</p>	<p>健康的で活力のある 超高齢化社会経営</p>	<p>2050年の超々高齢社会を 見据えた我々の生き方</p>	<p>2016年、科学技術の進展と経済成長は豊かさとも誰もが夢見た長寿をもたらした。しかし、医療・介護・年金などの社会保障費の急増や高齢者の孤立という長寿社会ゆえの問題等が顕在化している。また、高齢社会の問題に対する姿勢は各世代で異なり、若い世代になるほど自分の将来に悲観的な捉え方をしているのではないだろうか。</p> <p>我々が高齢者になる2050年には更なる長寿命化が進み「超々高齢社会」になることは想像に難くない。明るくポジティブな超々高齢社会の実現を我々自身の問題として正面から受け止め、ダイナミックな時間軸の中でこれから我々がどのように生き、社会をどう変えていくべきなのか、その方向性を提言していきたい。</p>
<p>[チーム2] 植田 強 大森 啓史 内藤 進 増井 博文 矢吹 浩一 吉富 亮弘</p>	<p>資源・エネルギー活用 の規律による環境保 全</p>	<p>世界連携によるCO<sub>2</sub>削減</p>	<p>地球温暖化問題は、世界全体で緊急的に解決しなければならない課題である。</p> <p>昨年末のCOP21で採択されたパリ協定において、ほぼ全ての国が参加する形で、新たな国際的な枠組みが構築されたが、産業革命前に比べて気温上昇を2℃未満に抑えるためには、現行ベースの取組みだけでは不十分であることは変わっていない。</p> <p>地球温暖化対策の取組みが、世界的に見て本格的に進まない主な要因は、公害の場合と異なり、すぐには困らないので危機感が欠如しているためだが、近い将来、地球温暖化問題が更に深刻化することは不可避であると考えます。</p> <p>そうした一方で、CO<sub>2</sub>削減に関するエネルギー消費・供給に関する新技術は、今後も経済性が改善することが必要ではあるが、実現可能な段階に到達しつつある。</p> <p>こうした状況を踏まえ、2050年を見据えて、世界全体での取組みをギアチェンジさせる新たな社会システムを確立し、将来の世代に素晴らしい地球を残したい。</p>

<p>[チーム4] 大久保 昭平 川島 隆明 白木 聡一郎 瀬川 武男 横山 宗明</p>	<p>多様な宗教、文化、政治を前提とした共通行動規範確立</p>	<p>Globalization21と、共通行動規範、そして日本の今日的な課題から目を背けず未来へ繋ぐ道を</p>	<p>現在世界中で、宗教原理主義によるテロリズム、移民による各国での軋轢の発生や領土領域紛争、国際機関・枠組みの不安定化、環境破壊など、様々な問題が同時多発的に起こっている。</p> <p>近代における国民国家の成立と産業革命に端を発する科学技術の発展が国際社会のグローバル化を加速させてきた。更に今日的な問題として我々はその背景にある中核課題に迫った。</p> <p>そして、それがもたらした国民国家の役割の相対的減少、異なる価値観を有す多様なプレイヤーの影響力の増加によって、社会が不安定化していることを示す。</p> <p>チーム4では、これらプレイヤーの軋轢を抑えるためには、そうしたコミュニティーを構成する個人に働きかける共通行動規範及び取り組み姿勢の確立が必要であると考え、本最終報告で、それらを提示する。これらの個人起源の行動を通じて、世界の直面する課題に対応してゆくという、未来への道を示す。</p>
<p>[チーム5] 生田 知子 茨木 誠一 菊池 教之 楠瀬 文生 紺野 博行 清水 暁</p>	<p>先端科学・技術の効用前提での新世界観の形成</p>	<p>先端科学・技術の効用前提での新世界観の形成</p>	<p>科学・技術は、人類がかつて経験したことのない驚異的なスピードで発展を続け、人類の生活を飛躍的に向上させ、多くの豊かさをもたらしてきた一方で、今日では人類の尊厳を脅かしかねない領域にまで、その最先端の成果が及んでいる。</p> <p>今後、科学・技術の更なる発展が加速度的に進んだ時、我々を待ち受ける世界はどのようなものになるのだろうか。果たして、その世界で我々はこれまで以上に豊かさを享受できるのだろうか。現代に生きる我々は、科学・技術が将来にわたってもたらす全てのリスクが必ずしも明らかでない中で、こうした問いに答えを出さねばならないという現実に直面している。</p> <p>チーム5では、この問いに答えるため、まず科学と技術の関係を概観した上で、科学・技術を巡る課題が、如何に人類によって克服されてきたか、さらに、先端科学・技術の積極的な活用について、現在の我々を躊躇させているものは何かを分析する。</p> <p>そして、人類が真の豊かさを享受し続けていくためには、我々は先端科学・技術に対してどのような姿勢で臨むべきか、その時、世界はどのようなものになるのかを考えてみたい。</p>